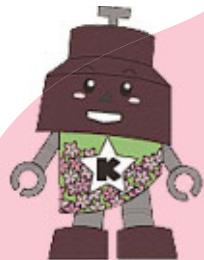


Co-Lab o

コ・ラボ
川口市男女共同参画情報紙

No.58
通巻 2018.3



特集

市民にとっての「男女平等」



Interview

川口こども食堂代表
佐藤 匡史さん

市民にとっての「男女平等」

昨年11月、市内在住の満20歳以上の男女各2,000人を対象に『男女共同参画に関する市民意識調査』が行われました。この調査は、男女共同参画に関する市民の意識・実態を明らかにし、課題を把握するとともに、今後の計画策定や男女共同参画施策推進のための基礎資料として活用することを目的としています。また、今回の調査の有効回収率は35.8%（男性26.8%、女性41.0%）でした。

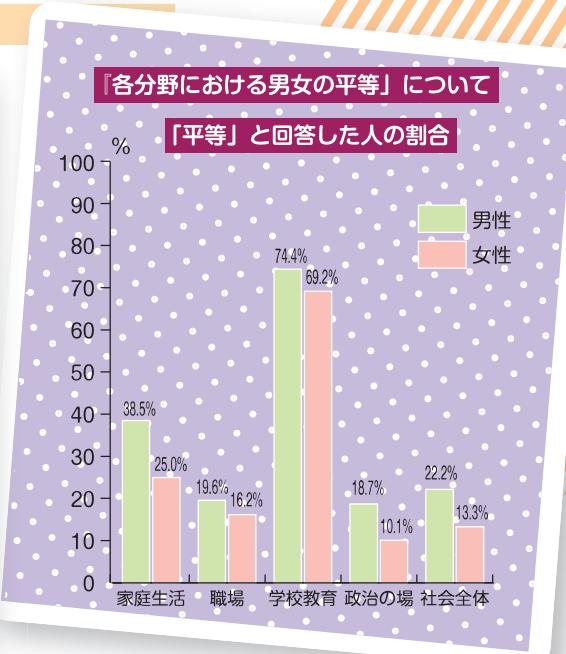
2つの項目をピックアップしてみたので、見てていきましょう。

各分野における男女の平等

「学校教育」の分野で男女が平等と考えている人の割合は、男女ともに約70%と比較的高いですが、「職場」と「政治の場」では男女ともに20%に満たない結果でした。

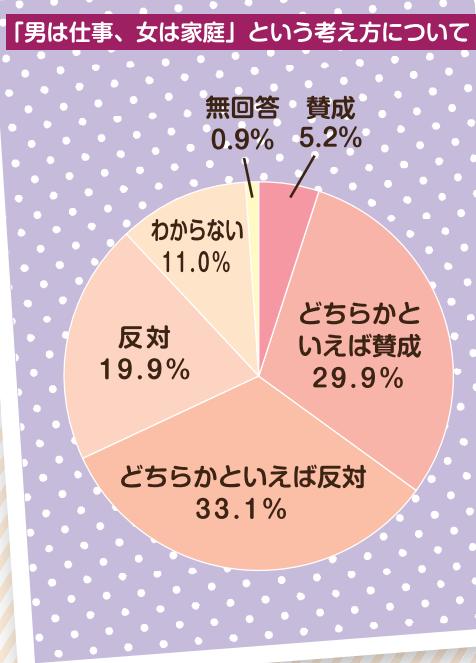
のことから、学校教育における男女平等の意識は高いにも関わらず、社会に出るとその意識が低下してしまう現状が読み取れます。

また、各国における男女格差を測るジェンダーギャップ指数*でも、健康の分野で日本は144カ国中1位、教育の分野でも76位ですが、経済の分野では114位、政治の分野では123位と、女性の政治・経済への参画の割合が他国に比べて低いということがわかります。



*ジェンダーギャップ指数：各国における男女格差を測る指数のこと。政治、経済、教育、健康の4つの分野のデータから作成されるもの。2017年、日本は114位で過去最低。

「男は仕事、女は家庭」という考え方



「男は仕事、女は家庭」という例に代表される、性別による固定的な役割分担の意識について、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」が35.1%、「反対」又は「どちらかといえば反対」が53%という結果でした。反対が賛成を上回っていますが、賛成と考えている人もまだ一定数いることがわかります。

男女共同参画の視点に立った法律や制度の整備が図られてきたとはいえ、長年にわたり社会的、文化的に形成された意識や慣習がまだ根強く残っています。

このような意識や慣習は、女性の就業継続や経済的な自立を妨げ、男性の生活スタイルを仕事中心型にするなど、男女の生き方の固定化につながります。個人の可能性や選択の幅を広めるためにも、性別による役割分担意識の解消が必要です。

誰もが能力を發揮し、個性を輝かせる社会へ

男女共同参画にまつわる市民の“つぶやき”

市民意識調査の自由意見から抜粋しました

- ・産休・育休を取っても当たり前に復帰できる社会なら、もっと子どもを産みたいと思う。
- ・女性だからと家庭内の仕事だけすれば良い時代は終わった。これからは女性が積極的に社会に参加できるようにと願っています。
- ・年をとって妻に先立たれた後でも、一人で家事ができたり、地域の人と話ができたりするようになりたい。
- ・「男」と「女」はそもそも違うもの。「全く同じ」を目指すのではなく、「それぞれにどんな価値を置けば平等になるのか」と考えることも大事。
- ・子どもは両親の背中を見て育つので、小さい時からの男女共同参画教育や、家庭内でフェアな考え方を持つ社会づくりが必要。
- ・どういった社会・家庭環境が平等で理想なのか、イメージしやすいように見える化する必要を感じます。
- ・啓発活動も大切だけど、いま実際に問題を抱えている方がより良く過ごせるための環境を整えることを優先すべき。

市は、これら皆さんの意見を反映し、第2次川口市男女共同参画計画を改訂します。また計画に基づき、男女共同参画の推進を図ります。そのためには、皆さんのご協力が必要不可欠です。性別に捉われることなく個性や能力を発揮できる社会の実現のために、一人一人ができるここと、地域において発信できることについて考えてきましょう。

女性活躍＆ワーク・ライフ・バランス推進ガイドを発行しました

平成28年4月に女性活躍推進法が施行されました。これにより、労働者301人以上の事業主には女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが義務づけられ、300人以下の事業主についても努力義務とされています。

少子高齢化が進み深刻な労働力不足が懸念される中、性別や立場に捉われず、さまざまな人が能力を発揮し、活躍できる社会づくりは大変重要です。

そこで市では、市内事業所に一般事業主行動計画の策定を促すとともに、多様な働き方の導入や、ワーク・ライフ・バランスの推進を通して、誰もが働きやすい職場環境を作つてもらうことを目的として女性活躍＆ワーク・ライフ・バランス推進ガイド（リーフレット）を作成しました。

このガイドは、市で主催している企業向けセミナーや就職面接会、女性活躍に関する各種制度や相談窓口の紹介がされているほか、川口信用金庫人材開発課長・伊藤由紀子さん、Co-Laboでもお話を伺った株式会社コマーム代表取締役・小松君恵さんへのインタビュー「女性活躍の現状と課題ー市内企業のこれまでとこれから」など、Co-Labo読者のみなさんにもぜひ読んでもらいたい内容が盛りだくさんです。（K.K.）

川口市女性活躍＆ワーク・ライフ・バランス推進ガイドで検索

担当：川口市 市民生活部 協働推進課 ☎ 048-227-7605
(火～土曜 9:30～21:00 日曜 9:30～17:00 祝日は休み)



Gender Equality Interview

市内に増えてきた子ども食堂。
今回は川口で最初の子ども食堂である
“川口こども食堂”を運営する
佐藤匡史さんにお話を伺いました。

※子ども食堂：経済的な理由などで十分食べられない子どもへの食事の提供や、ひとり親家庭、共働き家庭などの子どもの「孤食」の改善、地域の交流促進などさまざまな目的で運営されるもの。



現役パイロットと一緒に



バンド演奏を楽しむ参加者

川口こども食堂代表
SATO MASASHI
佐藤匡史さん

◆仲間集めから始めたこども食堂づくり

大学生の時、父の仕事がうまくいかず生活が困窮するという経験をしました。幸い、アルバイトをしながら無事卒業することができましたが、もし、まだ幼い時であつたらどうなっていたかわかりません。家庭環境で子どもの選択肢が狭まるということについて、やるせない気持ちが心の隅に残っていました。

そんな時、テレビで「子ども食堂」の存在を知り、2016年当時、川口市にはまだなかったことから、自分で立ち上げることにしました。チラシ、FaceBook、ブログで運営するメンバーを呼びかけると、16人ほど集まってくれました。立ち上げの資金はインターネットを通じて一般の方から出資を募るクラウドファンディングで集め、その後の費用は寄付などで賄っています。

◆夢の選択肢を広げるイベントづくり

川口こども食堂は、生活に困窮している家庭の子どもだけでなく、いろいろな事情により一人で食事をしている人たちも幅広く参加対象にしています。対象を広げることで、子どもだけでなくシニアも来られる大家族のような場所にしたかったからです。

また、食事を提供するほかに、さまざまな職業の人を呼んで話を聞くイベントを開催しています。例えばパイロット、保育士、消防士、ミスユニバース埼玉代表、国会議員などです。イ

ベントの日は多くの子どもたちが集まり、特に盛り上がります。私は、生まれた境遇で将来が決まるものではないと思っています。子どもたちの夢の選択肢を広げるためにも、今後もこのイベントを続けていきたいです。

◆子ども食堂を知って欲しい

今は何より、子ども食堂の存在を知ってもらうことの必要性を感じています。多くの方に活動を知ってもらうことで「きっかけさえあれば行動したい」と考えている支え手を増やすこともあります。

また、子ども食堂に参加した子どもたちには、たくさんの方から寄付や支援を頂いていることをきちんと伝えるようにしています。あの時、地域に助けてもらったという記憶を残すことはすごく大切だと思うからです。

私が常々思っているのは、いつ自分も支援の必要な立場になるのかわからないということ。子ども食堂の活動は誰かのためであり、また自分自身のためでもあります。仕事は忙しいですが、地域とつながれる時間を持つことで、本業とのバランスがとれていると感じています。これからも自分のペースで、できる範囲で活動を続けたいと思います。



取材を終えて

その穏やかな笑顔の奥に、抜群の行動力をお持ちの佐藤さん。本業をお持ちで、働き盛りの年代でもあります。無理せず、細く長く続けて行きたいと語る姿に、応援したくなる人柄が感じられました。(K.T.)

川口市では、川口こども食堂のほか、いくつかの子ども食堂があり、さまざまな特色ある活動をしています。



ゴリラ公園



川口市大字芝 434-1

Kawaguchi Cafe

MENU

Pick UP

本格的なBMXコースのある公園

巨大なゴリラが時計をねじ曲げているモニュメントが目を引くゴリラ公園。2020年に開催される東京オリンピックの追加種目になった自転車競技「BMX」の本格的なコースがあり、休日はBMXレースも開催されています。月に一度、ランニングバイク「ストライダー」の優先日時も設けられているので、アクティビティに遊ぶ子どもたちや親子連れに人気のスポットです。(T.N.)



* BMX: アメリカ生まれの小型の専用自転車を使用して行われる競技のこと
Bicycle Motocross (バイシクルモトクロス) の略

毎月第1日曜日の午前9時~午後3時までは、市の許可を受け、特定非営利活動法人日本オフロードショートトラック連盟がBMXコースを占用しています。一般的の利用はできませんのでご注意ください。

その他、公園利用上の注意看板をご覧になり、ルールを守ってご利用ください。

公益財団法人川口市公園緑地公社 HP
<http://www.k-ryokuchi.com/kouen/gorira.html>



自分を大切にする生き方について

『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』
●西原理恵子著 KADOKAWA

あなたの人生は、あなたが幸せになるためにある。

漫画「毎日かあさん」などで知られ、卒母宣言*をして世間に衝撃と共感の嵐を巻き起こした著者が贈る、現代を生き抜くための珠玉のメッセージ集。自分の幸せを誰かに依存するのではなく、自ら稼ぎ自由を手に入れることの大切さを力説してくれます。

*卒母宣言：著者が唱える、子どもが精神的な自立の時期を迎える、「母親業」を卒業することを宣言したもの。



『パラレルキャリアー新しい働き方を考えるヒント100』
●ナカムラ クニオ著 晶文社

自分のために働く

「パラレルキャリア」とは、経営学者ピーター・ドラッカーが提唱する、本業を持ちながら、それとは別に自分のやりたい夢の仕事を実現し、生きがいを見出していく働き方のことです。「大複業時代」の到来に、著者は新しい働き方の心得と働くことの意味を考えるきっかけを教えてくれます。



知っていますか？
男女共同参画シンボルマーク

内閣府男女共同参画局は平成21年に男女共同参画シンボルマークを一般公募により作成しました。このシンボルマークは男女が手を取り合っている様子が表現されており、互いに尊重し合い、共に歩んでいけたらという願いが込められています。

実はこのマーク、男女共同参画に関係するイベントや事業などで使用することができ、色もレッドやオレンジ、イエロー、グリーン、ブルーなど豊富なバリエーションから選択することができます。

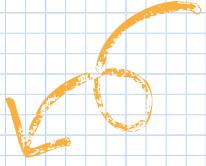
男女共同参画シンボルマークについて、内閣府のホームページに詳しく説明されています。興味のある方は、ぜひご覧ください。(Y.Y.)



(参考 URL)
内閣府「男女共同参画シンボルマークの使用について」
<http://www.gender.go.jp/symbol/>



セミナー潜入レポート！



10年後の親の介護と自分の仕事 ～働きたい私の両立計画～

11月25日(土)10時～11時30分 会場：中央ふれあい館（川口市本町4-5-26）
主催：川口市・川口の男女共同参画を考える会

10年後、あなたは何をしていますか？確実なのは、あなたやあなたの親も10歳年をとっているということ。高齢化が進む日本で、介護の問題は決して目を背けることができない問題の一つです。

今回のセミナーは、親の介護の入門編として、日本の介護の現状から公的な支援の紹介、仕事と介護を両立させるための心構えなどについて学びました。参加者は皆、熱心にメモを取っており、介護への関心の高さがうかがえました。

介護は個人差もあり、終わりが見えにくいことから、漠然とした不安を感じている人も多いものです。講師の堀崇樹さんの、「介護でそれまでの生活が変わることを受け入れる」ということと、「子どもを犠牲にしたいと思う親はいない。介護で自分の人生を犠牲にする必要はない」という言葉が印象的でした。

参加を
して

親を想ることはもちろん大切ですが、介護の犠牲になるのではなく、自分の人生や仕事も大切にする、「両立」について考えるきっかけになりました。(K.T.)



イベントREPORT！

こんなイベント行つきました！

編集委員レポート

ウーマンフェスタ in JR大宮駅

11月12日(日) 12時～17時

会場：JR大宮駅西口イベントスペース 主催：埼玉県

今回は、女性の活躍を応援するイベント「ウーマンフェスタ」に潜入しました。このイベントは、埼玉県の取り組み「埼玉版ウーマノミクス*プロジェクト」を紹介するため、パネル展示や就業相談会、ステージイベントなどを行うもので、大宮の他にも、深谷や所沢、越谷など、県内各地で開催されています。

会場では、誰もが働きやすい職場づくりに取り組む「多様な働き方実践企業」や、女性が少ない業界で活躍する女性たちの紹介がされていました。

また、在宅ワークに興味のある女性や働きたい女性が気軽に相談できるコーナーもあり、多くの女性が利用していました。その他にも、クイズラリー、バルーンアートの実演、体験コーナー「コバトンぬりえ」やコバトンとの記念撮影など、勉強しているお母さんのそばで子どもと一緒に楽しめるイベントとなっており、会場は大にぎわいでした。

*ウーマノミクス：「ウーマン」と「エコノミクス」を掛け合わせた造語。
女性の活躍を推進して経済の活性化につながる取り組みを行うこと。

参加を
して

ウーマノミクスについて学びながら、自分のキャリアを見つめ直すきっかけを得る事ができました。(K.K.)



Kawaguchi News Report

- 男女共同参画情報紙
「Co-Labo(コ・ラボ)」編集委員を
募集します
- 募集人数／4人
 - 活動内容／情報紙の企画や取材、原稿作成など
※編集会議は月に1回、土曜日に川口駅東口キュボ・ラボ本館棟M4階「男女共同参画コーナー」で開催します。
※調査・取材は随時行います。
 - 応募資格／市内在住・在勤・在学で、平成30年4月1日現在満18歳以上であること
 - 任期／平成30年4月～平成32年3月
(1期2年間。最長2期まで)
 - 発行回数／年2回(3月・9月)
 - 応募方法／応募用紙に必要事項を記入のうえご提出ください(郵送／メール／直接持参)。
※応募用紙(Word形式)は市のホームページからダウンロードもできます。
 - 応募期間／～3月16日(金)必着
 - 選考方法／書類審査及び面接
 - その他／会議への出席1回につき2,000円をお支払いします。

「Co-Labo(コ・ラボ)」とは
公募による市民編集委員が中心となって企画・編集を行い、3月と9月の年2回発行しています。男女共同参画に関するタイムリーな話題から、多方面で活躍する川口の人々、市で実施している事業の紹介やちょっとためになるコラムまで、毎回充実の内容でお届けしています。



男女共同参画苦情処理委員制度について

川口市男女共同参画推進条例第14条の規定に基づき、市が実施している男女共同参画の推進に関する施策または男女共同参画の推進に影響を及ぼすと認められる施策等に対して、市民の皆さんから苦情の申出や意見の提出ができる制度です。詳しくは、協働推進課にお問い合わせください。

川口市 市民生活部 協働推進課 ☎ 048-227-7605
(火～土曜 9:30～21:00 日曜 9:30～17:00 祝日は休み)

○DVに関する相談先

川口市配偶者暴力相談支援センター

窓口相談

●相談日時●

毎週 火・木・金曜日(祝日・年末年始を除く) 午前10時～午後5時

※事前予約制です

☎ 048-299-8162

女性のための電話相談

●相談日時●

毎月 第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日) 午後1時～午後3時

※ひとり30分まで相談を受けます。

☎ 0120-532-317

(相談日時の通話可)

その他の相談先

川口市役所 市民相談室 (法律相談・ファミリー相談等)(予約制)

月～金(祝日・年末年始を除く)
8:30～17:15

☎ 048-258-1110

最寄りの警察署(生活安全課)

月～金(祝日・年末年始を除く)
8:30～17:15

川口警察署 ☎ 048-253-0110

武南警察署 ☎ 048-286-0110

緊急の時は110番!

配偶者や恋人など親しい間柄で行われる暴力行為をDVといいます。殴る・蹴るだけが暴力ではありません。

- 何を言っても無視する
- 交友関係を制限する
- 避妊に協力しない
- 性行為を強要する
- 生活費を渡さない
- 暴言を吐く

☑(チェック)がひとつでもついたら、DVかもしれません。
一人で悩まずに、まずはご相談ください。

市役所からのお知らせ



川口市「みんなが主役～家族の育児～」フォトコンテスト 平成29年度 受賞作品の発表

平成30年2月17日(土)に開催された『COLORFUL(カラフル)ふえすた～男女共同参画イベント～』で、受賞作品の表彰と応募作品の展示を行いました。

市長賞



『身体1つでは足りません』

優秀賞



『イクメンと未来のイクメン』



『子育ては楽しい!』



『じいじのお箸教室』



『遊んだあとのお約束』

カラフル
COLORFULふえすた

実行
委員長賞



『遠くにいても、みんな家族!!』

カラフル
COLORFULふえすた
実行委員
特別賞



『大きい芋 でも重たいよ』

きゅばらん
館



『Sunday Morning's ニヤニヤ』

事務局

川口市市民生活部
協働推進課

〒332-0015 川口市川口1-1-1 キュポ・ラ本館棟M4階
TEL 048(227)7605 FAX 048(226)7718

編 集 後 記

市民編集委員

小谷松裕子・北浦和季
関佳子・丹波かよ子
仲朋子・山口泰博

※五十音順

◆コ・ラボ編集委員として、川口市の男女共同参画推進の取り組みに関わっています。紙面へのご意見・ご感想をお待ちしております。(Y.O.) ◆イベント紹介の度、こんなイベントがあつたのかと驚きます。行きたかったと悔やむことのないよう、日頃からアンテナを張っていたいです。(K.K.) ◆調査から浮かび上がってきた、男女平等における市民の厳しい現実。“能力を活かし、伸ばせる社会” “自分らしく輝ける川口”をめざして、皆で力を合わせていきましょう。(Y.S.) ◆何かを動かすのは、誰かを思うたった一人の一歩なのかもしれません。私も、人を思うそんな一歩を踏み出してみたいです。(K.T.) ◆毎回、1人でも多くの人に読んでもらうにはどうしたらいいか、みんなで考えながら作っているコ・ラボ。今号も楽しんでもらえますように！(T.N.) ◆「埼玉都民」ゆえに地域を知りたいと参加。3年半勤続を続けてきましたが今年後半の入院で3回欠席。でも川口を知ることができました。(Y.Y.)